

船舶事故等調査報告書

平成22年3月25日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009広第113号	
事故等種類	衝突	
発生日時	平成21年3月22日 21時30分ごろ	
発生場所	香川県多度津港北西方沖 多度津港西防波堤灯台から真方位297° 1,300m付近（概位 北緯34° 17.2′ 東経133° 43.4′）	
事故等調査の経過	平成21年4月10日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 漁船 金比羅丸、4.95トン KA3-19976（漁船登録番号）、個人所有 B 漁船 豊福丸、4.5トン KA3-19026（漁船登録番号）、個人所有	
乗組員等に関する情報	A 船長、一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 B 船長、二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定	
死傷者等	なし	
損傷	A 船首バルバスバウに擦過傷 B 操舵室左舷側にき裂を伴う擦過傷、左舷船首部のハンドレールに擦過傷	
事故等の経過	A船は、船長ほか1人が乗り組み、多度津港北西方沖において、約8ノット（kn）の速力で北東進中、B船は、船長が1人で乗り組み、同海域を自動操舵で約0.5knの速力でえい網して南西進中、平成21年3月22日21時30分ごろ、A船の船首部とB船の左舷側中央部とが衝突した。	
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 西北西、風力 2、視界 良好 海象：潮汐 下げ潮の初期	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし 船長Aは、多度津港北西方沖を北東進中、B船が操業を行っていることを知っていたが、左舷船尾の甲板上で作業を行い、船首方の見通しが操舵室により遮られていたことから、船首方の見張りを行わなかった可能性があると考えられる。 船長Bは、えい網して南西進中、A船の存在に気付いていたが、操舵室内で下を向いて食事をしていて船首方の見張りを行わなかった可能性があると考えられる。
原因	本事故は、夜間、多度津港北西方沖において、A船が北東進中、B船がえい網して南西進中、両船とも見張りを行わなかったため、両船が衝突したことにより発生した可能性があると考えられる。	